

福 井 県 医 師 会

だより

第698号 令和元年(2019)8月

第98回 福井県医学会総会 特集



大中前県医会長と令和元年度会員表彰式被表彰者



会 長 就 任 挨 拶

福井県医師会長 池 端 幸 彦

さる令和元年6月16日第248回福井県医師会定例代議員会において、福井県医師会会長にご選任頂きましたこと、まずもって心より御礼申し上げます。

私は、昭和61年6月に父の病院を継承すべく越前市に戻り福井県医師会に入会して以来、これまで武生医師会理事6期12年を経て、福井県医師会では介護保険委員会委員長3期6年、理事3期6年、更に副会長として4期8年にわたり活動させて頂き、介護保険や在宅・認知症を始めとする地域医療全般に渡り少しずつ知識と経験を積ませて頂きました。その間、中上光雄先生、西浦幸男先生、松田尚武先生、そして大中正光前会長と4代の会長のもとで、医師会活動のノウハウを学ばせて頂きました。特に大中前会長には4期8年にわたり副会長としてお仕えする中で、会長職の大変さも含めて本当に色々勉強させて頂きました。中でも一番印象に残っていることは、やはり大中前会長の卓越した決断力と実行力で当県医師会館新築事業を完遂できたことです。

しかしご承知の通り、医療を取り巻く環境も近年大きく様変わりしようとしており、地域包括ケアシステムも、人口減少を伴いながら高齢者がピークを迎える2040年までの超少子高齢社会「人生百年時代」という新たな段階への対応を求められています。更に地域医療構想の名の下で病院の機能分化と連携、在宅医療の推進が叫ばれる一方、医師の偏在対策や専門医制度が遅々として進まない中、「医師の働き方改革」で医師の働き方も大きく変革・制限されようとしています。

このように医療界は大変厳しい時代を迎えようとしています。こういう時だからこそ、県医師会は全会員の強い結束と団結のもと、守るべきところは守り、変えるべきところは大胆なチェンジを断行し、更なる改革による組織強化を図らなければならないと感じています。そして三層構造における郡市区等医師会、日本医師会との強固な連携と、行政当局や教育機関を始めとする各関係機関や他の医療介護福祉関連団体との密な協力の

下、新しい令和の時代に相応しい「開かれた県医師会」として、県民と会員の負託に応えるべく、その機能を果たしていかなければなりません。

そこで令和元年7月4日に開催された就任後初の県医師会理事会において、下記のとおりこの2年間の県医師会活動に関するキャッチフレーズと基本方針、そして5本の柱を発表させて頂き、ご承認を頂きました。

【キャッチフレーズ】

Act Now for the Future ～未来のための今～

【基本方針】

県民そして会員のための県医師会へのチェンジ

【5本の柱】

1. 組織の効率化・活性化
2. 郡市区等医師会との連携強化
3. 県及び県内医療関連団体・組織等との連携強化
4. 災害対策本部設置と機能強化
5. 広報活動・医政活動の充実

今後は上記の基本方針のもと、会務を大胆に遂行していきたいと思いますが、ご承知の通り私はまだまだ若輩者であり、その重責を果たせるものか不安がないと言えは嘘になります。しかし幸い副会長には前福井市医師会長の安川繁博先生と福井大学附属病院長で福井県医師会長の腰地孝昭先生という素晴らしいお二人にご就任頂きましたことは、私にとってはこの上もない大きな力になります。更に県内各郡市区医師会から再任、新任合わせて22名の素晴らしい理事、監事の先生方にもご就任頂きましたので、皆さんのお力をお借りしながら、県民のためそして会員のために全身全霊県医師会活動に取り組んで参りたいと思いますので、どうかご支援ご鞭撻の程心よりお願い申し上げます。県医師会会長就任のご挨拶と決意表明とさせて頂きます。



副会長就任挨拶

福井県医師会副会長 安川 繁博

去る6月16日の第248回福井県医師会定例代議員会におきまして、福井県医師会副会長に選任いただきましたこと、心より御礼申し上げます。これまで福井市医師会理事5年、副会長2年、会長4年と医師会活動を行ってまいりましたが、県医師会の仕事は初めてのことであり、職責の重さに身の引き締まる思いをしています。池端新会長を全力でサポートしていく所存ですが、まずは早く仕事を覚え、それに慣れていくことから始めようと考えています。

日本で少子高齢化社会が叫ばれて久しくなりますが、これからは多死社会そして急激な人口減少の時代を迎えようとしています。国は2025年に向けて地域医療構想の策定、地域包括ケアシステムの構築という2本柱の政策をすすめています。その形がいよいよ具体化する時期になってきていると考えます。2025年に向けての対策、更には人口減少が顕著化するその先の時代を見据えて、あるべき医療の形を考えていく必要があります。福井市の会長として地域医療構想調整会議に参加してまいりましたが、引き続きこの問題に取り組んでいきたいと考えています。入院から在宅へ、急性期医療から慢性期医療への連携体制の構築が大切ですが、池端会長は慢性期医療の中心的な存在です。急性期医療を担っている福井大学の腰地先生に副会長になっていただいたので、よりよい連携体制づくりにつながるのではないかと期待しています。地域医療構想に関連して医師偏在の問題があります。国は医師偏在指数をまもなく公表する予定で、杉本新知事は医師確保のためドクタープール事業を考えているようですが、簡単に解決する問題ではないように思われます。

働き方改革も様々な議論がなされてきましたが、医療の分野にも一般職とほとんど変わらない内容で導入されることになりました。法律で定められたことなので従わざるを得ませんが、いろいろな問題が出てくるのが想定されます。問題策をしっかりとチェックしていくことが重要になりそうです。

昨今、全国的に大きな災害が頻発しています。何十年何百年に一度の、あるいは想定外のといった形容詞がつく災害が毎年のように起こっています。日本医師会ではJMATの組織づくりに取り組んでいます。福井県医師会としてもきちんと対応していかなければなりません。実践的な訓練なども含め、災害医療にしっかり取り組みたいと考えています。

今年福井県の医療に関係する団体（歯科医師会、薬剤師会、看護協会）すべての会長が変わり、新しい体制となりました。知事も杉本知事になりました。どう変わってくるかはまだ分かりませんが、各団体それぞれが行政とうまく協力してやっていく必要があります。互いに意見交換をしながら福井の医療をよりよい方向にもっていけたらと思っています。

今年は消費税増税も予定されています。消費税増税分は医療福祉の方へまわすというのが以前の公約だったように記憶していますが、いつの間にか違ったことになっており増税による負担増が心配されます。医療界を取り巻く問題は山積していますが、池端会長のもと、微力ながらもしっかりと働きたいと思っています。先生方の御指導、御鞭撻をよろしくお願い申し上げます。挨拶といたします。



副会長就任挨拶

福井県医師会副会長 腰地 孝昭

この度、図らずも伝統ある福井県医師会の副会長を拜命することとなりましたので、紙面をお借りして会員の皆様への御礼とご挨拶を申し上げます。

まず、この仰天人事は池端会長のお考えによるものであり、勤務医で、しかも「現職の大病院長が都道府県医師会の執行部に参画する例は全国初ではないか」という言葉につられて、私の好奇心が揺さぶられました。早速、福井大学の上田学長にも相談したところ、「本務である心臓血管外科の教授と病院長、さらに医師会副会長と3足の草鞋を履くことになって大丈夫ですか？」と尋ねられました。すなわち、学長の本心としては少し懸念があると言われたのですが、元来、あまり後先を考えない（ある意味外科医的な）私は、福井県の医療のために少しでも役立つなら一つのチャンスと思って頑張ってみたいとお答えし、立候補させて頂いた次第です。

その結果、安川副会長と私が池端会長を支える新執行部が誕生した（ちなみに全員外科医です）と言いたところですが、実のところはこれまで長年にわたって福井県医師会の屋台骨を支えてこられた多くの先生方が引き続き手腕を発揮され、私はそのスクラムの中で幾分かの小さな役割ができれば幸いと考えている次第です。

さて、近年国は地域医療構想、医師の働き方改革、医師の偏在是正の三位一体改革をかなり本気で推し進めようとしていることはご承知の通りです。背景には少子高齢化、人口減少による社会構造の激変があり、社会保障費の増大による年金、医療、介護の持続性に大きな懸念がある事も明らかです。私たちが過ごしてきた何でも右肩上がりの20世紀とは異なるパラダイムシフトがこれからいよいよ本格化するに当たり、それぞれの小さな立場と良い思い出だけ背負って順応していくのはとても困難と思われま

す。このような荒波は高等教育の現場も同様で、“大学改革”と称して変革の大きな波が押し寄せています。国立大学法人化以降に着々と運営費交付金は減額となり、外部資金の獲得、附属病院の経営強化など生き残りをかけた戦いが当たり前となりました。今後、一法人複数大学化、あるいは地域連携プラットホーム型の経営統合や連携により何とか生き残りを図るしかないわけですが、最悪、福井の地から福井大学が消滅するという驚愕かつ絶望的な事態も想定しない訳にはいきません。そこで福井のような小粒な自治体では、オール福井の産学官連携で地域社会の核となるアカデミアを支えて頂くことが不可欠です。

医療の世界でも同様に、これから産学官連携のキーワードは益々重要になるのではないかと思います。この際の産業界は製薬会社、医療機器メーカーなどももちろんありますが、医師会、看護協会等々の職能団体も間違いなく重要なステークホルダーです。そういう意味で、この度私が副会長として県の医師会活動に参画させて頂いたことは、連携の橋渡しや接着剤にもなる可能性があり、県の行政も含めた連携の強化に繋げていきたいと願っています。

最後になりますが、私はこれまで大中前会長の下で理事会にも加えて頂き、県の委員会等で議論を交わし、個人的にも同じ心臓外科医として大変可愛がって頂くなど、ご厚情に心から感謝しております。今後は大中先生を初めとする前執行部の運営をうまく継承し、池端会長の指導力の下で医師会員のみならず県民のための医師会として新たな進みを始めたいと思います。浅学非才の身にこのような重責が務まるかどうかいささか不安でもありますが、今後とも会員各位の皆様に温かいご指導、ご鞭撻を心よりお願いし、就任のご挨拶とさせていただきます。